

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金

企画研究プロジェクトⅠ（教員・学生参加型） 2025年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏 名
	コミュニティ政策学科・3年	吉川美咲
指導教員	所属・職名	氏 名
	コミュニティ政策学科・教授	藤井誠一郎
研究課題	「靱町の人と地域を、次代につなぐ」	
研究年度	2025年度	
プロジェクト 分担者	越野由子	

プロジェクトの内容及び成果の概要

1. 本プロジェクトのテーマ

本プロジェクトは、コミュニティ政策学科で掲げている「人と地域を、次代につなぐ」というコンセプトの具現化を目的として立ち上げたものである。急速な過疎化や高齢化が進む広島県福山市靱町をフィールドとし、地域の魅力を感じながら靱町で「職住近接」の形で暮らし働く人々に着目した。これらの人々へのインタビューを通じて、現在の働き方や靱町に住む魅力を明らかにし、地域の新たな価値を浮き彫りにすることを目指した。

靱町には、鉄鋼団地をはじめ、食品業や宿泊業、介護事業、造船業、海運業など多くの会社が居を構えており、勤務先の選択肢が多い。また、こども園・小学校・中学校が町内にあり、子育てしやすい環境が整っている。私たちは、こうした靱町の特性を踏まえ、「職住近接」を靱町の新たな魅力として位置づけた。コロナ禍を契機に、リモートワークが普及し、居住地の選択肢が広がる中で、「職住近接」はU・Iターンを促進するキーワードになると考える。本プロジェクトでは、インタビュー内容をもとに靱町の魅力を伝える冊子を作成し、その発信を通じて、移住の促進および靱町の持続的な発展に寄与することを目的とする。

2. 本プロジェクトの成果

本プロジェクトでは、インタビュー調査に先立ち、地域への理解を深め、信頼関係を構築するための活動を行った。7月には、住民への挨拶回りを通じて顔合わせを行うとともに、靱町の伝統的行事である「お手火祭り」を見学し、地域の文化や歴史が人々の暮らしと密接に結びついていることを学んだ（自費）。また、9月にはゼミ合宿として再訪し、町歩きを通じて町並み保存や歴史、観光について理解を深めた。あわせて、靱町に関わる活動を行っている人々から、町に対する思いを中心に話を伺った（自費）。

事前活動で得た知見を踏まえ、インタビュー調査に向けた準備として情報収集を進めた。また、「仕事内容や働き方」、「靱町で職住近接を選んだきっかけ」といった基本的な事項に加え、「職住近接のメリット・デメリット」、「靱町で働く魅力」、「移住や未来への展望」などを中心に計12項目を設定した。

インタビュー調査は11月から12月にかけて実施し、年齢、職種、移住・定住経験が多様である計22名を対象とした。調査にあたっては、靱町の方々が温かく迎えてくださり、自身の働き方や暮らし、靱町への思いについて真摯に語ってくださった。

インタビュー調査を通して、靱町における「職住近接」という働き方が、地域の暮らしや仕事、そして人との関係性と深く結びついていることが明らかになった。

第一に、職住近接は子育てを行いやすい環境を形成している点である。通勤時間が短い

ことにより、家族で過ごせる時間を確保しやすくなるだけではなく、日常的な挨拶や会話を通じた「顔が見える関係性」が築かれている。こうした関係性は、地域全体で子どもを見守る環境につながり、保護者にとっての安心感を生み出している。また、通勤や散歩の途中での住民との関わりや地域行事への参加は、子どもたちが地域社会と接点を持つ機会となり、学びの場としても機能している。

第二に、職住近接は生活と仕事に連続性を生み出し、地域との関係性を通じて仕事の質を高めている点である。靱町で職住近接を実施する人々は、仕事を生活から切り離されたものではなく、日常の延長として捉えている。福祉分野に携わる人からは、地域で暮らしながら働くことで、利用者の生活背景や人間関係を踏まえた支援が可能になるという声が聞かれた。このように、地域で暮らし、人を知ることが仕事の在り方そのものに影響を与えている点は、福祉分野に限らず、商業など他の分野にも共通して見られた。

第三に、職住近接は地域の担い手を引き受ける契機となっている点である。町内会や消防団、祭り、防災などの地域活動への関与は、地域を「自分ごと」として捉える意識を育んでいる。職住近接で暮らすことにより、こうした役割を自然に受け入れる立場となり、結果として地域の生活や文化の維持に関わることに繋がっている。

さらに、靱町の町並みや海といった環境も、職住近接という働き方を支える重要な要素であることが分かった。生活と仕事が町内で完結することは、移動の負担を軽減するだけではなく、心身の余裕を生み出している。実際に、散歩や魚釣りなど、日常の中で自然環境に触れることが生活の一部となっているという声も多く聞かれた。これらは、靱町という場所で職住近接の形で暮らすからこそ得られる経験である。

今後は、本インタビュー調査で得られた内容をもとに冊子の執筆を進めていく予定である。本冊子では、靱町の歴史や暮らし、地域に根ざして働く人々の声を伝えることを目的とする。町外の人々に靱町を知ってもらおうと同時に、町内の人々にとっても、改めて地域の魅力や価値を再認識する契機となることを目指したい。